

はじめに

情報メディアセンター所長 中尾 浩

情報メディアセンター紀要COMの第39号をお届けいたします。今回のCOMはいろいろな意味で新しい時代への一歩となるCOMになりました。

まず、大変残念なことですが、今回は原稿申し込み状況が大変悪い号となりました。過去にも危機的な状況は何度かありましたが、今回はその中で最大の危機が訪れたといった印象です。

理由はいくつか考えられますが、最大の理由は本学は人文・社会科学系の学部のみで構成されているので、必然的に理系の教員が少ないことです。潜在的な書き手の多い他の学内紀要に比べて、潜在的な書き手が圧倒的に少ないことは否めません。さらに、数少ない潜在的な書き手の多くが学内紀要において他にも執筆の場を持っていることもCOMに原稿が集まりにくい原因の一つと言えます。私事で恐縮ですが、もしかしたら今号のCOMを読まれた読者の中には、私の原稿に違和感を感じた方もおられるかもしれません。

しかし、苦しい状況を嘆いてばかりはいられません。むしろ苦しいときにこそ、知恵を出したいと思います。再度、私事で恐縮ですが、実はこの原稿はもともと語学教育研究室で発行している『言語と人間』に投稿するつもりでした。もちろん、メディアセンター所長という立場から原稿の集まり具合の悪いCOMに何かを書く必要が出てきたので、どれくらい情報科学に関連した内容の原稿に書き直すか悩みましたが、ICTそのものを論じたものでなくても、ICT技術を応用することで出来上がった成果をCOMは積極的に受け入れていることをアピールするために、あえて『言語と人間』に投稿するつもりだった原稿をそのままCOMに投稿することにしました。このような原稿も受け入れる見本とを考えていただいて奮って御寄稿いただくと幸いです。

もう一つ、今号から大きく変更した点があります。従来COMは冊子体と同時にデジタル版も作成するという出版スタイルでしたが、今号からデジタル版をメインにして、冊子体は極力少なくする方向で編集を進めることにしました。皆さんの周りでもおそらく冊子体が減って、デジタル版の論文等が増えていることと思います。時代の流れに沿うと同時に、冊子体の良さを継承しつつ、デジタル版ならではの長所を生かす方向で今後とも活動を続けていきたいと考えています。

COMが生まれたときには冊子体だけでしたが、数年前からデジタル版も同時に

すようになり，近い将来にはデジタル版のみとなるのは時間の問題と思われます。情報メディアセンター紀要COMは，時代に流されることなく，時代に逆行することなく，変化を受け入れつつ，自ら変化していく発表の場になればと願っています。